

平成30年10月26日（金）2校時 倉敷北公民館 指導者 都志 真由美
児童支援者 藤村 和範

1 単元名 ハッと知って goodな行動！ ずっと健康！！（保健：けがの防止）

2 単元の目標

ずっと健康な生活を送るための課題を進んで見付け、解決を目指して知識を習得し、それらを活用してけがやけがの悪化を防止する方法を考えて表現することで、自分の生活に生かそうとすることができる。

3 単元の構想

【児童の実態】

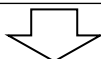
本学級は、男子19名、女子18名、計37名で、素直で前向きに学習に取り組む児童が多い。男女の仲は良く、協力して課題解決に向かう姿が見られる。グループで課題について調べたり考えたりする経験はしてきているが、伝えたいことを的確にまとめる力は十分ではない。また、小グループでも自分の考えを伝えることに抵抗を感じている児童もいる。

本校の5年生は、けがが多い学年である。ルールやめあての意味を理解しないまま生活していることが、多くのけがにつながっている。また、周囲の危険に気付かず生活している児童も多い。そのため、生活にひそんでいる危険と対策を自分たちで考え、安全な行動をすることの意味を理解することができるようになりたい。

来年度は最高学年として1年生の世話をする立場になる。今はまだ自分本位の言動が目立つが、新1年生を招いての交流給食や就学時健康診断などで新1年生と交流し、少しずつ高学年としての意識が芽生えつつある。総合的な学習の時間や特別活動とも関連付け、新1年生のけがをどうすれば防ぐことができるかを考えることで、自分を振り返り、少しでも自分の行動変容につながることができるようにしたい。

【追究する内容の捉え方】

本単元では、けがを防止するための対策を他者に伝えるという活用場面を設定し、けがの原因や対策を根拠を明らかにしながら理解していく。また、けがの悪化を防ぐ方法を、科学的根拠をもって理解していく。このことは、生涯にわたって身体的・精神的に良好である状態をめざそうとする素地を養ううえで大切であると捉えた。



「課題に迫るために、めあてをもち、夢中になって学び続ける」子どもの育成を目指して

健康課題：ずっと健康な生活を送ることができるかどうか

【問いと学びの姿】

問い どうしてけがをするのだろうか？

→ けがをした理由を仲間分けして、けがの原因について考えている姿。

問い けがを防ぐにはどうすればよいのだろうか？

→ 生活にひそんでいる新1年生にとっての危険を探り、その対策を考えている姿。

→ けがを防止するためには自分はどうすればよいかを考えている姿。

問い けがの悪化を防ぐにはどうすればよいのだろうか？

→ けがが悪化しないための手当の仕方を根拠にもとづいて考えている姿。

→ けがが悪化しないためには自分はどうすればよいかを考えている姿。

【単元構成の工夫】

単元の導入では、自分の経験を振り返り、健康であるということはどういうことかを考える。当たり前のように自分は健康であると捉えている児童が、ずっと健康な生活を送るためにはけがを防止して安全に生活する必要もあることに気付き、そのためにはどうすればよいかという健康課題をもつことができるようにする。そして、けがをした経験を想起し、原因を仲間分けすることで、けがが人の行動と環境が関わり起こっていることに気付き、けがを防止するための解決の見通しを明確にすることができるようにする。

単元の前半では、総合的な学習の時間とも関連付け、新1年生のけがを防ぐにはどうすればよいかを考える。新1年生のためにという視点を与え、客観的に検証することで、より多面的に危険を探り対策を考えることができるようにしたい。また、1年生のころと5年生の今の自分とを比較して考える活動を取り入れることで、自分の行動を振り返り、学んだことをより自分のものとして捉えることができるようにする。

単元の後半では、けがの悪化を防ぐための手当の仕方を考える。適切な手当の仕方だけでなく、なぜその手当が必要なのかを調べて発表し、実習することで、より適切な手当の仕方を身に付けることができるようにする。そして、具体的な場面を設定し、実際に自分はどう対処するかを話し合うことで、学んだことを活用して、実生活に生かすことができる知識を構築することができるようにする。

4 課題を追究し続けるための支援の工夫

- 自分を見つめて
 - ・ 危険、対策という追究のための手がかりを明確にすることで、解決の見通しをもって課題追究していくことができるようにする。
 - ・ 新1年生のけがを防ぐためという視点を与え、客観的に検証することで、より多面的に危険を探って対策を考えることができるようにする。
 - ・ 1年生のころと5年生の今の自分とを比較して考える活動を取り入れることで、自分の行動を振り返り、学んだことをより自分のこととして捉えることができるようにする。
 - ・ 保健指導で使用している「ぼくとわたしのけんこう」に自分にできそうなことを書き込む活動を取り入れることで、自分に必要なことは何かを考え、学習後の行動変容につなぐことができるようにする。
 - ・ 具体的な場面を設定してけがの対処の仕方を話し合うようにすることで、得た知識を活用して適切な対処の仕方を考え、実生活に生かすことができるようにする。
- 仲間とともに
 - ・ 生活にひそんでいる危険をグループごとに分担して探り、考えた対策をまとめて発表することで、場所に応じた多様な危険回避の方法を知ることができるようにする。
 - ・ 具体的な場面を設定してけがの対処の仕方を考える際には、グループで話し合うことで、場に応じた適切な対処の仕方を導き出すことができるようにする。
- 環境にはたらきかけて
 - ・ けがの手当の仕方について調べる際には、教科書や資料、タブレット型端末などを準備しておき、自由に活用できるようにすることで、手当の意味や科学的根拠を進んで調べることができるようにする。また、養護教諭から専門的知識をアドバイスしてもらうことで、より明確な根拠をもって手当の仕方を説明することができるようにする。
 - ・ けがの手当の実習をする際には、応急手当のための用具や用品を実際に使用して実習することで、得た知識を活用して、より生活に生かせる技能を習得することができるようにする。

5 評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすることができる。	けがを防止するために課題を見付け、危険の予測や回避をしたり、けがを手当したりする方法を考え、それらを表している。	けがを防止するための課題を進んで追究しようとしたり、自分の生活に生かそうとしたりしている。
評価規準	ア けがが発生している原因や回避する方法を理解することができる。 イ けがの悪化を防ぐ対処の仕方や簡単な手当の仕方を理解し、実践することができる。	カ けがやけがの悪化を防ぐための課題を見付け、危険の予測や回避をする方法や手当の仕方を考えている。 キ けがの原因や対策、けがの手当の仕方を分かりやすくまとめ、それらを説明している。	サ 自分にとっての健康について考え、けがやけがの悪化を防ぐための課題を進んで追究しようとしている。 シ けがやけがの悪化の防止について学んだことを、自分の生活に生かそうとしている。